

## 図書館利用案内

1月のピックアップコーナー

「人権」

————— 小笠原祥子 31

## 図書館員の文献紹介と資料の活用

本学図書館のスペシャル・コレクションより (40)

『ベーリングの大探検』から見える話

————— 奥 正敬 32・33

図書館に関する素朴な疑問コーナー

————— 小笠原祥子 34

名作再読、拾い読み (30)

『喪服の似合うエレクトラ』(2)

(“*Mourning becomes Electra*”)

————— 小澤文彦 35

おこしやす、図書館へ

「言語学、はじめの一步 (22)」

————— 入学直哉、藤井達也 36

日本の歴史41

『図説明治の宰相』

————— 稲垣宏行 37

Book Review Corner ————— 38・39

## 図書館利用案内

ライブラリー・カレンダー 2015 (1月~3月)

————— 40

## ●本誌の表紙に使われた貴重書

「オイレンブルク生誕200周年を記念して」



*Die preussische Expedition nach Ost-Asien.*  
4 Bde. Berlin, 1864.

『〔オイレンブルク〕東アジア遠征記』

今年のプロイセン（ドイツ）と日本の徳川幕府との間で通商条約を締結したフリードリヒ・オイレンブルク (Friedrich Eulenburg, 1815-1881) の生誕200年にあたります。

オイレンブルクはプロイセン領のケーニヒスブルク（現在はロシアのカリーニングラード）の貴族の家に生まれました。大蔵省や内務省に勤め、ワルシャワ駐劄総領事への就任直前の1859年にプロイセンとドイツ諸邦が派遣する東アジア遠征使節の全権公使に任命され、急速遠征艦隊で東アジアへ向かいます。

日本には1860（万延元）年に来航して、我が国が米、英、仏、蘭、露と締結したものと同様の修好通商条約をプロイセンやハンザ諸邦と結ぶことを求めました。しかし、諸邦との関係で交渉が難航したためプロイセンとの交渉を先行させ、同国が諸邦の貿易の後ろ盾になることで条約を締結しました。本書はその過程と清国やシャム（タイ）での交渉内容を随員たちが書いた遠征記です。

オイレンブルクは1862年に帰国してビスマルク内閣の内務大臣として入閣します。プロイセンはオーストリアとの普墮戦争で勝利すると、北ドイツ連邦としてハンザ諸都市を併合し、結果的に日本と結んだ修好通商条約は一本化しました。さらにフランスと戦った普仏戦争終了時の1871年にドイツとしての国家統一が実現します。

この間、彼は内相として尽力しましたが、1878年に辞任し、3年後の1881年に死去しました。日独友好の基盤を築いた人物でした。

(終)